

【高等学校「情報Ⅰ」 情報社会の問題解決、職業の抱える問題を分析し、

情報技術を活用した解決策を提案する授業における「主体的に学習に取り組む態度」の評価①

大阪府

学習指導と学習評価の工夫・改善点の概要

- ①個人プレゼンテーションにおいて、グループ（ペア）での「中間発表」の場を設定することで、相互評価を行い、他者の良い部分や評価を基に自らの改善点等を理解し、ブラッシュアップに繋げるとともに、プレゼンテーションすることに慣れさせることができた。
- ②スライド進捗（振り返り）シートを活用することで、生徒自身による「学習の振り返り」と教員による「生徒の変容や成長」の気付きに繋がり、学習過程を見取ることで『主体的に学習に取り組む態度』の評価にも繋げることができた。

評価規準

- ・『主体的に学習に取り組む態度』をスライド進捗（振り返り）シートの入力内容から、ループブックを用いて評価（※記入回数ではなく、自己評価と改善、自己調整の状況进行评估）

理論（情報共有と情報セキュリティ、著作権）

テーマ設定と解決策の提案
スライド作成

中間発表・相互評価

理論（情報技術の仕組み）

発表・振り返り・まとめ

学習指導と学習評価の工夫・改善の具体的な取組

- 「理論⇒実習⇒発表」という一方向ではなく、理論を実習の合間に入れることで、学んだことを適宜プレゼンテーションに反映させる機会を確保した。
- 理論回の授業においては、プリントの空欄を埋めているかどうかではなく「自ら学びを深めようとする」態度を見取ることが目的であると生徒に伝え、評価規準を示した。（※『知識・技能』については、テスト等で評価することも併せて示している。）
- スライド進捗（振り返り）シートについても、記入回数ではなく、「自己評価と改善、自己調整の状況进行评估」ことを生徒に伝え、評価規準（ループブック）も明確にした。
- 全体発表までにペアでの中間発表の場を設定することで、相互評価することができ、その中で他者の良い点や評価から改善点を明確にし、生徒自身の成長や作品のブラッシュアップに繋げることができた。
- 発表後の振り返りをWeb上でのアンケート機能を用いて、文章でまとめさせることで『思考・判断・表現』についても評価することができた。

【高等学校「情報Ⅰ」 情報社会の問題解決、職業の抱える問題を分析し、

情報技術を活用した解決策を提案する授業における「主体的に学習に取り組む態度」の評価②

①



よい発表練習にしよう！ うんうん

発表者 聞き手

- 聞き手とアイコンタクト
- ジェスチャー
- スライド指さし
- 自分の言葉で語る
- 発表者をよく見る
- 頷き・リアクション
- 終了時には大きな拍手を

②

	A	B	C
1	1. 自分が発表した感想・反省 あまり相手のほうを見て発表できなかった。時間におさめるために早口になってしまった。		
2			
3	2. 発表者に対する評価 (1) スライド		
4	アドバイス用メモ欄	参考文献 O/x	画像 URL O/x
5	仕事内容で画像 URL 抜け 色少なくしたほうがいい		
6	観点①「情報統合」(知識・技能)	評価基準	
7	B 情報統合がなされていない。	S	自己評価の理由について、単元のねらいを理解し、自分の実施した結果や内容に加え、自己変容・成長、次回に向けての改善策を見出すなど、全体的に深い振り返りと分析ができています。
8	観点②「強調表現」(思考・判断・問題解決)	A	自己評価の理由について、単元のねらいを理解し、自分の実施した結果や内容について全体的に回答ができています。
9	C 強調表現が多すぎる。または強調表現が適切に用いられていない。	B	自己評価の理由について、自分の実施した結果や内容を説明しきれない回答がある。
10	評価を選択▼	C	自己評価の理由について、自分の実施した結果や内容を説明しきれない回答が多い。
11	S 強調表現の仕方に工夫が見られ、強調表現が適切に用いられている。		
12	A 強調表現が適切に用いられており、強調表現が適切に用いられている。		
13	B 強調表現が使われているが、強調表現が多すぎる。または全く強調表現がない。		

①

中間発表では相互評価の時間を十分にとれるようにペアで行った。その中で相手の良い点はしっかりと褒めること、修正すべき点も理由を含めて説明することを事前に指示することで、聞き手も漠然と聞くのではなく、評価しながら聞くことができていた。また、スライドを中心に評価する場合と、話の内容を中心に評価する場合とで分けて発表を行うことで、ポイントを絞って評価しやすいよう工夫されていた。

②

授業や作業などの前に評価についてのルーブリックを生徒に示すことで、生徒も目標を意識して学習に取り組むことができていた。教員は次のことを意識してルーブリックを作成した。

＜授業プリント＞

「自ら学びを深めようとしているか」を見取る

- 他の生徒の例から学び取ったことを記入している
- 他教科の既習事項と関連付けて受け止められている
- 教員の説明を聞き自分なりにポイントを書き込んでいる
- その日の授業のポイントを一言で押さえている 等

＜スライド進捗シート＞ ＜振り返りフォーム＞

「学習の調整」を見取る

- 次に取り組むべき課題を具体的に記入できている
- 単元のねらいを理解し、自らの取組みについて省察できている 等

【活用したソフトや機能】 プレゼンテーションソフト、アンケート機能

「共通教科情報科「情報Ⅰ」の学習指導と学習評価の工夫・改善について」**「情報社会の問題解決『職業の抱える問題を分析し、情報技術を活用した解決策を提案する授業における「主体的に学習に取り組む態度」の評価』」について**

「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業展開をされており、そのための授業中の時間配分やテンポについて工夫されていた。例えば、理論についての講義内容はポイントを絞り説明することで、生徒が考える時間を十分に確保されていた。また、ワークシートをデジタル化することによる個々の取組み状況を即時に共有できる仕組みに加え、どの内容を共有すべきか、生徒の様子を見て回るなど、机間指導が効果的であった。評価については、記述内容をもとに丁寧な見取りがなされており、生徒が考える時間を作るところから始まり、教員も評価しやすい環境を作っていくことは他教科でも生かすことができると考えられる。

一方で、プレゼンテーションとしてまとめた内容について、作成した生徒自身がどの程度理解しているかについては、より丁寧に見取ることが必要である。発表練習においても、より内容に踏み込んだコメント、デザインについて既習事項を踏まえたコメント、評価結果から改善のための観点を示すなど、より深い学びへと繋がっていくことを期待したい。